

今日の説教のポイント <使徒言行録 17 章 1～9 節>

①パウロが全ての人に語りかけたこと、イエス・キリストに注目！

パウロは、新しい町に行くと、まずユダヤ人に聖書から語りかけました、「我々が信じている神様がイエス・キリストの出来事を起こされたのだ」、と (3 節)。では、聖書を知らない異邦人にはどう語りかけたのでしょうか？ 先週の箇所には、洗礼を受けることを決心した異邦人の看守の話が出ていました。パウロは彼に、「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます」と、「主の言葉を語った」のでした (16 : 31～32)。つまりイエス・キリストのことを語る点では同じでした。違う点を挙げるとすれば、異邦人の看守の場合には、驚きの出来事が伴っていたことでした。イエス・キリストに目を注ぎ、そこに神様の恵みを汲み取らなければならないことは誰にとっても同じなのです。そしてそのことは神様によって確かに誰にも起こされるのです！ 今日の箇所でも、ユダヤ人が、ギリシア人が、おもだった婦人たちが信じる者となったように (4 節)。

②「イエスという別の王がいる」 でっち上げであり、真実な言葉！

試練が襲うにもかかわらず、物質的に満ち足り、地位も品格もあつた「かなりの数のおもだった婦人たち (貴婦人たち : 口語訳聖書)」 (4 節。12 節も参照) がなぜ主を信じる者になったのでしょうか？ 一方、「それをねたんだ」 (5 節) ユダヤ人たちは、「(パウロたちは) 皇帝の勅令に背いて、『イエスという別の王がいる』と言っています」とでっち上げ (7 節)、さらに次の町までパウロを追いかけています (13 節)。しかし、これら彼女らと彼らが見せている姿は、皆、私たちの中にもあつた色んな時の姿ではないでしょうか？ この世的に満ち足りているが故に自信たっぷり、かつ、それを守ることに必死であつた時の自分。それに疲れ、空しさを覚え、もっと真実なものを渴望する時の自分。また、自分が依って立っていたこの世的なものを実際に全て失い、絶望的になった時の自分等々。そんな時にこそ気づくべきこと、「イエスという別の王がいる！」。これは真実でもあるのです。彼女たちが見出したのはまさにそのことなのです！ 気づくべく与えられた時に、私たちもこのお方に立ち帰ろうではありませんか！